

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_英語 I		（ TCM101 ）
講義名（コード）	TCM_英語 I		（ TCM101 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	福島 ジェニー	時間数	30時間
成績評価教員	福島 ジェニー	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	The objective of this class is to enhance students' English language skills both in spoken and written English that can be useful to communicate effectively in various situation at the hospital and other medical related industries. The lesson is incorporated with practical and methodological approaches to ensure a well balanced learning opportunities : learning through input, learning through output, deliberate learning, and fluency development.
全体的内容と概要	Each lesson includes of vocabulary building, role-play practice base on common hospital scenarios, listening comprehension activities and opportunities for feedback and reflection to ensure effective learning and practical application of English communication skills in hospital settings.
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	This unit, enable the students to acquire knowledge at the hospital reception. It incorporates with vocabulary building, pronunciation, comprehension, conversation.	Unit 1: Hospital Reception- Keywords: Registration form; Health insurance card; Registration card; Referral; Identification; Social insurance; National health insurance; Traveler's insurance; Residence card; First visit/ re-visit, return visit; Feverish; Photocopy; Bold section; Orthopedic surgeon; Reimburse
2	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal activities.	Unit 1: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
3	This unit, enable the students to acquire knowledge at the hospital guidance. It incorporates with vocabulary building, pronunciation, comprehension, conversation.	Unit 2: Hospital Guidance- Keywords: Registration; Admission counter; Window number; Laboratory; Pharmacy window: Cashier window; Emergency room; Nurses station; Business office; Information counter/General reception
4	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal activities.	Unit 2: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
5	This unit, enable the students to acquire knowledge about how to handle different situations on the phone at the hospital. It incorporates with vocabulary building.	Unit 3: Telephone Support- Keywords: Bus stop; bound for; consultation times/hours; Visiting hours; Cold; National holiday; Outpatient; Inpatient; Local train; Limited express
6	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal activities.	Unit 3: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
7	This unit, enable the students to acquire knowledge on accounting and other related matters. It incorporates with vocabulary building, pronunciation, comprehension, conversation.	Unit 4: Accounting- Keywords: Medical expense(s); First visit fee; Consultation fee; Medical certificate; Medical record/Medical chart bill/ Invoice; Itemized bill/ Detailed
8	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal activities.	Unit 4: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
9	This unit, enable the students to acquire knowledge on reservation and grammatical functions based on the topic. It incorporates with vocabulary building, pronunciation.	Unit 5: Reservation- Keywords: Internal medicine; Return appointment; Appointment slip/ slip for one's return visit; Results; Usage of whenever; Receptionist; Usage of available; Flu/influenza; Vaccination; Shot/ injection
10	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal activities.	Unit 5: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
11	This unit, enable the students to acquire knowledge about hospital life. It incorporates with vocabulary building, pronunciation, comprehension, conversation practice and	Unit 6: Hospital life- Keywords: Daily necessities; Nightwear/ pajamas: Underwear; Towel; Valuables; Personal belongings; Wake-up time; Bedtime; Lights-out; Admission/ hospitalization; Brochures/ pamphlet; Halal food; Muslim; Vending machine; ATM (Automated Teller Machine)
12	Enable the students to develop communication and comprehension skills both verbal and non-verbal activities.	Unit 6: Situation roleplay and Skill Test (Paper based test)
13	Skills evaluation	Pre-examination activity and review
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Situational Communication Skills for Hospital Staff
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_表現研究		（ TCM105 ）
講義名（コード）	TCM_表現研究 I_A		（ TCM105A ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	伊東かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解するために、様々な形式の文章から統合的に必要な情報を読み取れるようになる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N1レベルの文字語彙と聴解を学び、薬や病気の症状を正確に説明できるようにする
授業時間外の学修	動画の視聴
履修上の注意事項等	試験会場と同様、携帯電話の使用は認めない。常に試験会場と同じ気持ちで受験すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	発音の基礎；モーラの理解、正しい発音の事故訂正ができる。	オリエンテーション、・ゲームのルール、・成績の評価基準の説明、・日本語の発音基礎、・日中漢字変換の原則と実施練習
2	通訳者の倫理と原則が理解できる	●日本語の文化理解；端午の節句、●聞き取りと発音練習：ん、促音、長音・短音、濁音・清音 ●漢字の読み方発音練習 ●体の部位練習 ●N1 聞き取りについて、間違い探しと分析、●クイズ 変な日本語訂正 ●テキスト 伝え方
3	体の部位を日本語で感じ取れる聞きとりができない原因を理解できる	1-1. 通訳理論 (1) 訳すということ (2) 文化をどう訳すか (3) 通訳者が担う責任、(4) 等価なメッセージとは (5) 言語使用間 (6) 三者二言語モデル ◎そこ、あそこの使用法◎イ形容詞とナ形容詞の区別
4	通訳の技術の理解、自己評価が客観的にできるようになる	・通訳の必要な技術、・自己評価の仕方
5	日本人の空気の読み方への適用ができる。人間関係の問題対処方法を理解できる	・対人通訳とは ・日本人の空気の読み方 ・
6	通訳者の基本的な立場が理解できる	・通訳とは ・医療通訳者の役割
7	日常使える尊敬語、尊敬語の規則を体で覚えらる	・敬語；尊敬語・体使った練習 ・場面演習
8	動詞の基本形と尊敬語と謙譲語がすぐに言えるようになる	・敬語：謙譲語 ：体を使った練習、・場面演習
9	敬語の活用がスムーズにできる	・敬語の復習・アクセント ・聞き取り ・使役形と受け身形、・られる：可能形、尊敬語、受け身
10	通訳の過程の理解	・受け身形の意味 ・通訳のプロセス
11	助詞の区別ができる、助詞を推測できる	・助詞の基本、固有名詞のアクセント・ 聞き取りの間違い分析
12	医療の倫理観を身に着ける	・通訳の倫理、・期末テストの範囲発表、準備
13	活字資料を朗読、通訳できる。	・期末テストの練習、間違い分析
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	・間違いの分析と原因究明、対策、・夏休みの目標発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
参考文献・資料等	日本語基礎文法の p p t
備考	毎回のルーチン①出席一言作文、②毎日N1 即時応答 2 問、作文訂正、よくある必要な表現

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_文書理解 I		（ TCM107 ）
講義名（コード）	TCM_文書理解 I _A		（ TCM107A ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	劉琦	時間数	30時間
成績評価教員	劉琦	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解と医療の倫理観を備え、通訳者としての適切な言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材となる。
全体的内容と概要	前記の「到達目標」に基づき、本講義は「適切な言語運用力とコミュニケーション能力を身につける」ことを中心に、文書や日本語の理解を高めるために行う。具体的には日本語能力試験（N1）に合格することを目標とし、文字・語彙および文法の解説や練習を実施する。テキストは『日本語パワードリルN1文字・語彙』と『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』の2冊であるが、1回の授業ごとに交替で使用する。
授業時間外の学修	また、文字、語彙、文法は医療通訳の能力を高めるためのものであるため、練習問題の解答を書くだけでなく、問題と解答を朗読し、発音や口語能力の練習も行う内容が多く、授業時間だけでは全部学習することが難しいと思われるため、一部の練習問題は自宅で完成し、授業では解説を中心に講義を進めるようにする。
履修上の注意事項等	受講生の個人差があると考えられるため、下記授業計画は実情に応じて進度を調整する場合もある。なお、N1を受験して合格した受講生には学期末の成績評価を加算する。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、1ニュースを聞くの1～3
2	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第1回～3回の練習問題
3	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、1ニュースを聞くの4～6
4	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第4回～5回の練習問題と集中トレーニング動詞（1）（2）
5	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、Checkとまとめの問題
6	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、2スピーチを聞くの7～9
7	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第6回～8回の練習問題
8	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、2スピーチを聞くの10～12
9	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第9回～10回の練習問題と集中トレーニング慣用句（1）（2）
10	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、2スピーチを聞くの13～15
11	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第11回～13回の練習問題
12	練習問題を通して日本語の文法に対する理解と応用の熟練度を深める。	『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』を使用、Checkとまとめの問題
13	練習問題を通して日本語の文字と語彙に対する理解と応用の熟練度を深める。	『日本語パワードリルN1文字・語彙』を使用、第14回～15回の練習問題と集中トレーニングカタカナ語（1）（2）
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	試験問題を解説する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『日本語パワードリルN1文字・語彙』、『TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語』
参考文献・資料等	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
備考	進度は変更になることがあります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_日本事情 I		（ TCM109 ）
講義名（コード）	TCM_日本事情 I		（ TCM109 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	浅沼 渉	時間数	30時間
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本での薬の販売についての歴史や法律について学ぶ。
全体的内容と概要	登録販売士に必要な知識、特に第1章「医薬品に共通する特性と基本的な知識」について日本語で理解していく。また日本語の薬の名称や成分名とその効用を覚え、さらに正しく発音・聴き取りができるようする。
授業時間外の学修	普段の生活でも敬語表現を使うように気をつける。
履修上の注意事項等	「薬学基礎 I」の授業と連動しているので、それぞれの授業の関連性を意識して取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医薬品の本質（食品との違い）について理解する	登録販売者試験について 1-I 1) 医薬品の本質
2	医薬品の本質（食品との違い）について理解する	2) 医薬品のリスク評価 3) 健康食品
3	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因について理解する	1-II 1) 副作用 2) 不適正な使用と有害事象
4	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因について理解する	3) 相互作用と飲み合わせ 4) 小児・高齢者・妊婦、授乳婦等への配慮
5	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因について理解する	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質
6	適切な医薬品選択と受診勧奨について理解する	1-IV 1) 一般医薬品で対処可能な症状等の範囲 2) 販売時のコミュニケーション
7	薬害の歴史を理解し、過去の薬害訴訟についておさえる	1-IV 1) 医薬品の副作用等に対する基本的な考え方 2) 医薬品の副作用等に関する主な訴訟
8	禁煙補助剤の働きと適正使用情報について理解する	3-XII 1) ニコチン置換療法 2) 禁煙補助剤の働き 3) 相互作用と受診勧奨
9	消毒薬の効果や成分、誤用時の対処法について理解する	3-XV 1 1) 感染症の防止 2) 消毒薬 3) 主な殺菌消毒成分 4) 誤用の際の応急処置
10	殺虫剤と忌避剤の効果や成分、適正使用情報について理解する	3-XV 2 1) 主な衛生害虫 2) 主な殺虫成分と忌避成分 3) 殺虫剤と忌避剤の主な剤形
11	一般用検査薬の適切な使用や販売時の注意点について理解する	3-XVI 1 尿糖・尿タンパク検査薬 3-XVI 2 妊娠検査薬
12	医薬品医療機器等法の主要な条文について理解する	4-I 1) 医薬品医療機器等法の目的 2) 関連事業者・医療関係者の責務と国民の役割 3) 登録販売者と販売従事登録
13	前期の復習	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験テキスト&要点整理」 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	進度は変更になることがあります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_薬学基礎 I		（ TCM111 ）
講義名（コード）	TCM_薬学基礎 I		（ TCM111 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	ホイ リキ ニコル	時間数	30時間
成績評価教員	ホイ リキ ニコル	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得する。
全体の内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	日本医薬品登録者試験ご説明 医薬品の定義・リスク評価方法	講義 医薬品登録者試験の解説・医薬品の概論
2	薬は体内でたどるルート	講義 医薬品の働き仕組み
3	剤形ごとの違い 適切な使用方法	講義 薬剤形分類・副作用の定義・原因
4	副作用等対する基本的な考え方	講義 プラセボ効果・薬害の歴史
5	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・消化器系
6	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・呼吸器系
7	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・循環系
8	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・泌尿器系
9	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・目・耳・鼻などの感覚器官
10	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・皮膚・骨格系
11	人体各器官の機能を理解する	講義 人体の構造と働き・脳と神経系
12	医薬品の副作用が人体にどのように影響することが理解する。	講義 症状から見た副作用
13	まとめて復習	講義 前期講義の復習、テスト準備解説
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験テキスト&要点整理」 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_ビジネスICT I		（ TCM113 ）
講義名（コード）	TCM_ビジネスICT I		（ TCM113 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	佐々木隆一	時間数	30時間
成績評価教員	佐々木隆一	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	本学の教育理念に基づき、医療従事者（通訳者）を目標にICT(情報通信技術) スキルの基本を実習を通して取得する。
全体的内容と概要	Windows基本操作/タッチタイピングと日本語入力/WORDの基本操作。 ファイル・フォルダ管理/AI&インターネット活用他。
授業時間外の学修	タッチタイピング練習は、毎日10～30分程度自分でやる習慣をつけること。
履修上の注意事項等	必須課題を期限までに未提出の場合は、当日分が欠席扱いになるため必ず提出すること。 また万一、通信環境の事情によりUSBメモリが必要になる場合は別途指示をする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション シラバスとPC環境の把握	教材配布・座席の指定、シラバス及び目標&予定、出欠&成績評価方法、 教室内PC環境と注意点、授業の進め方、PCの起動と終了操作 他
2	日本語入力の基本の確認 授業環境について	日本語IME、ローマ字表の確認/タッチタイピング練習方法 課題提出の方法
3	必須課題	授業内容に関する課題
4	ファイル・フォルダ管理他	ファイルのダウンロード&アップロード/フォルダ管理
5	文書の作成と管理1	Wordの構成画面と名称、文書作成の流れ 記号・手書き入力の方法（日本語IMEの機能）、文書の保存
6	文書の作成と管理2	演習
7	文字書式・段落書式・ページレイアウト	文字書式・段落書式(1) /フォント/段落/行間/インデントの設定他
8	ビジネス文書の作成	一般的なビジネス文書・ビジネス用語の例/社外・社内文書の基本ルール
9	ビジネス文書の作成	インデント/均等割り付け/タブ設定（ルーラー）/ルビ/全体の配置調整方法
10	レポートや報告書の作成	段落の背景色と罫線/段落番号/行間他
11	表・画像・図形を使用した文書作成	表の操作：挿入・編集方法/画像・図形の挿入と編集 レイアウト変更・セルの結合他
12	表・画像・図形を使用した文書作成	演習
13	まとめと補足	まとめ・総合問題演習 質問対応等
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ISBN: 9784296050369 情報利活用 基本演習 Office2021対応
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_ビジネスマナー I		（ TCM115 ）
講義名（コード）	TCM_ビジネスマナー I		（ TCM115 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	高橋春子	時間数	30時間
成績評価教員	高橋春子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際化やデジタル化が進む社会で求められる人財となるために、就活や仕事の現場に必要な知識やマナーそしてホスピタリティについて理解し、実践スキルを身につけることを目標とする。
全体の内容と概要	就活や社会人に求められるビジネスマナーやコミュニケーション能力・ホスピタリティ精神について、具体例から学び、自ら考え、ワーク等を取り入れて身につける。
授業時間外の学修	自分の卒業後の進む道について具体的に考え、実践する姿勢を持つこと。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	イントロダクションとビジネス・マナーの必要性を学ぶ	当授業の目標と内容について説明する。就活や社会人生活になぜビジネス・マナーが必要なのか、近年の就活スケジュールと併せて確認する。
2	第一印象とビジネス・マナーの基本を学ぶ	第一印象の重要性についてメラビアン ^① の法則等から理解し、就活やビジネス・コミュニケーションに活かせるようにする。
3	GWの為 課題提出	詳細は事前の授業で説明する。
4	挨拶と言葉遣いについて理解し習得する	社会人としての基本である挨拶（お辞儀）や言葉遣いについて、TPOにあわせて使えるようになる。
5	面接等でのマナーについて学ぶ ①	会社説明会や就職活動での面接でのマナーについて、基本的な面接時の立ち振る舞いや言葉遣い等を学び実践練習を行う。
6	デジタル・ツールや電話に関するビジネス・マナーを学ぶ	ビジネスでのEメールやチャット、スケジュールツールを使用する際の注意事項や有効に使うスキルを学ぶ。
7	「社会人基礎力」について学ぶ	経産省が提唱する「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）」の重要性を理解し、社会に出る心構えを学ぶ。
8	コミュニケーションの大切さについて学ぶ	日本の組織でのチームワークや協働の重要性について理解し、相手を思いやる気持ちやビジネス・マナー・行動様式を学ぶ。
9	社内外でのビジネス・マナーを学ぶ	来客の対応や名刺の扱い方、車内やエレベータでの席次等について学ぶ。
10	傾聴の大切さについて学び、ホスピタリティ精神を高める	相手に寄り添い、話を聞くことの大切さを学び、質問や確認することで正しく聴くことを身につける。
11	多文化コミュニケーションと日本企業の特徴	多文化の背景を持つチームで働くことや、日本のビジネス習慣・マナーについて学ぶ。
12	テレワークのマナーについて学ぶ	テレワークをする時に知っておくべきビジネス・マナーについて学ぶ。
13	前期期末試験前確認	前期期末試験前確認に学んだことを確認する。
14	前期期末試験	前期期末試験
15	前期期末試験 フィードバック	前期期末試験のフィードバック等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「改訂版 留学生・日本で働く人の為のビジネス・マナーとルール（特定非営利活動法人 日本語教育研究所編、日本能率協会マネジメントセンター発行ISBN:978-4-8005-9072-5 C3034）」
参考文献・資料等	随時お知らせします。
備考	学生の希望やその他の条件により授業スケジュールを変更する場合がある。 各授業内にリアクションペーパーの提出を求めることがある。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_キャリアデザイン I		（ TCM117 ）
講義名（コード）	TCM_キャリアデザイン I		（ TCM117 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	高橋春子	時間数	30時間
成績評価教員	高橋春子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自己のライフキャリアを見つめなおし、多様なキャリア形成の基礎を養うこと。基本となる知識を調査・発表できるようになること。希望する進路に応じてグループごとに外部進路情報を主体的に調べ発表する。
全体的内容と概要	専門学校へ進学した意味や目的を再確認し、必要なキャリア形成の知識・スキルを自ら調べてアウトプットできるようにする。
授業時間外の学修	授業時間中にわからないことは補助プリントを活用し自分で調べること。授業時間内でのインプット（講義）は最低限とする。不明点は授業時間外に学習者が調べ授業時間内に質問することとする。
履修上の注意事項等	学習者が自ら調べ、自分の意見をアウトプットさせて参加者のフィードバックを積極的に受けるスタイルとする。教員は学習者の発言を促し、授業全体をファシリテートすること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション、学習の流れ	講師自己紹介、学習の流れ、就職活動スケジュール、進学活動スケジュールの確認。ペーパータワーを使ってチームでの協力することの学びを得る。
2	外国人の働き方について知る①	外国人留学生は特定技能1号（外食）マイページ登録をおこなう。求められる日本語力、日本社会が外国人採用をするための心構えについて知る。
3	2年間の学びの目標を考える。	2年間の目標、2年後の卒業式をイメージしてありたい姿を描く。（必要に応じてマングラチャートを活用）グループごとに発表
4	自己の特性を知る。	自己理解。タイプ論に基づいた自己分析ツールを活用し、自己の性格的特徴を知る。学校卒業後進路希望アンケートの実施。
5	自己の進路の情報を集める	「進学」「就職」「起業」「海外留学」の4チームに分かれ、各進路での2年間で取り組むべき事柄、チームの役割、中間目標について調査する。
6	身だしなみ	就職活動で使用するスーツ着用のポイントを知る。「メラビアンの法則」に基づき視覚情報の重要性を知る。
7	インターンシップについて理解する	インターンシップとは何か。目的やインターンシップの効果について理解する。「マイナビ2026」登録。きづくインターンシップについて知る。
8	中間発表	「進学」「就職」「起業」「海外留学」の4チームごとに各15分間のプレゼンテーション。各チームごとで振り返り。自己の特性や強みを振り返る。
9	外国人の働き方について知る②	日本国内の外国人労働者数、在留資格（特に特定技能1号）、求められる日本語力、日本社会が外国人採用をするための心構えについて知る。
10	就職活動報告	就職活動を終えた先輩の声を聴き、自己の就職活動の糧とする。
11	企業研究	企業を招き、事前に予習した学習内容に基づき質問しながら企業理念・事業概要・ビジネスモデルについて理解を深める。
12	進学について	3年次編入、大学進学・専門学校の場合、今から準備すべきことを知る。
13	最終発表	グループ発表成果を持って前期評価とする。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	外国人留学生のための就活ガイド2025
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	医療知識基礎 I		（ TCM119 ）
講義名（コード）	TCM_医療知識基礎 I		（ TCM119 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	8
授業担当者	山本樹実加、龔佳奕	時間数	120
成績評価教員	山本樹実加、龔佳奕	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、業界の専門家による実務授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	医療通訳として必要な医療基礎知識を身につける。
全体の内容と概要	四つの系を9課ずつ学ぶ。解剖学という物理的な視点、生理学という生物化学の視点から人体器官の働き・機能を理解した上で、それらに関連する疾病を病理学の視点より分析し、疾病の症状・治療をより深く理解する。
授業時間外の学修	毎回、授業を開始する15分前に先生が前回の授業に関する内容を問題提起し、学生たちが回答するという形式で復習する。これを学生の評価基準（平常点）とする。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	細胞	細胞の構造と仕組み
2	遺伝	遺伝子の定義、一般的な働き方
3	遺伝子組み換え	遺伝子組み換え研究の応用と現状
4	大脳 1	前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉構造
5	大脳 1	大脳半球の灰白質（大脳皮質）、白質（大脳髄質）
6	小脳	平衡感覚、大脳皮質からの情報を受ける、運動調節機能
7	脳幹	間脳、中脳、橋および延髄から構成、中継する機能
8	記憶	海馬から大脳皮質への記憶の転送の新しい仕組み
9	脳疾患	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作等々
10	脊髄	脳と身体の各部とを連絡し、知覚・運動の刺激伝達、反射機能
11	神経系 1	神経組織、情報の伝達を行うニューロン、グリア細胞、オリゴデンドログリア、アストログリア
12	神経系 2	末梢神経：脳神経、脊髄神経／体性神経、求心性神経、遠心性神経、自律神経
13	神経痛	末梢神経が圧迫、炎症で刺激等々の仕組み
14	脳画像	一般的な脳画像判断
15	総論	復習、総論

4. 本授業科目の授業計画

1	呼吸器の構造について理解する	喉・声帯・気管・気管支構造
2	呼吸器の構造について理解する	肺の構造
3	呼吸器の機能について理解する	ガス交換のしくみ
4	呼吸器の機能について理解する	呼吸のしくみ・内呼吸のしくみ
5	主な呼吸器系疾患について理解する	気管支炎・肺炎・肺がん
6	循環器の構造について理解する	心臓の構造及び心臓のはたらき
7	循環器のしくみについて理解する	血液循環のしくみ
8	循環器のしくみについて理解する	血管のしくみ・血圧のしくみ
9	主な循環器系疾患について理解する	狭心症・心筋梗塞・高血圧・大動脈瘤
10	血液のしくみ及び血液の働きについて理解する	血液のしくみ・血液の働き・リンパ系のしくみ及び働き・主な血液病気
11	消化器の構造について理解する	消化管の構造
12	消化器のしくみについて理解する	食道・胃のしくみ
13	消化器のしくみについて理解する	小腸のしくみ（十二指腸・空腸・回腸）
14	復習	春学期授業のまとめ
15		期末試験

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	からだのしくみ事典
参考文献・資料等	カールソン神経科学テキスト 第4版－脳と行動 Neil R. Carlson(著) プリント配布
備考	<u>・本教員は、医療関係者として、日本及び中国にて看護師資格を取得し、中国にて同職を歴任し、本校の実務教員として指導している。</u>

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TCM_医療事務基礎 I		（ TCM121 ）
講義名（コード）	TCM_医療事務基礎 I		（ TCM121 ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1 年生
対象コース	CM1	単位数	4単位
授業担当者	日本病院管理教育協会	時間数	60時間
成績評価教員	日本病院管理教育協会	講義期間	春学期
実務者教員	殿岡 綾子	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療事務の役割を学び、正確な診療報酬明細書作成が行えるようになる。基本的診療報酬明細書作成から応用まで、正確な療報酬明細書が作成できるようになる。
全体的内容と概要	医療事務の役割、医療制度の概要、診療報酬各項目の名称、点数算定方法、請求の流れを学び、診療報酬明細書を作成する。テキスト、プリントを使い、正しい診療報酬明細書の作成の仕方を学ぶ。
授業時間外の学修	テキスト・プリントの復習を行うこと。
履修上の注意事項等	項目ごとに授業を進める為、欠席すると診療報酬明細書が作成できなくなってしまうので注意する。電卓を用意すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医療事務の役割・医療保険制度を理解する	・医療事務の役割 ・診療報酬明細書について ・医療保険制度 ・保険の種類や請求先について
2	初診料	・初診料 ・時間による加算について ・演習問題 ・診療報酬明細書作成
3	再診料	・再診料 ・外来管理加算について ・演習問題 ・診療報酬明細書作成
4	医学管理等	・医学管理等 ・特定疾患療養管理料、薬剤情報提供料 ・演習問題 ・診療報酬明細書作成
5	在宅	・往診料、在宅訪問診療料について ・演習問題 ・診療報酬明細書作成
6	投薬料	・薬の種類について ・薬剤の計算方法について ・処方料、調剤料、調剤技術基本料について
7	投薬料	・演習問題〔基本・応用〕 ・診療報酬明細書作成
8	注射料	・注射の種類について ・薬剤料、手技料算定方法 ・演習問題 ・診療報酬明細書作成
9	1～8の内容を復習し、診療報酬明細書を作成する	・演習問題〔基本・応用〕 ・診療報酬明細書作成
10	処置料、手術料、麻酔料	・処置料 ・創傷処置、熱傷処置 ・手術料 ・麻酔料
11	検査料	・検体検査判断料、実施料、採血料 ・検査の種類や名称について ・演習問題 ・診療報酬明細書作成
12	画像診断料	・画像診断料 ・フィルム料 ・演習問題 ・診療報酬明細書作成
13	演習問題により、診療報酬明細書を作成する	・演習問題〔基本・応用〕 ・診療報酬明細書作成
14	演習問題により、診療報酬明細書を作成する	・演習問題〔基本・応用〕 ・診療報酬明細書作成
15	演習問題により、診療報酬明細書を作成する	・演習問題〔基本・応用〕 ・診療報酬明細書作成

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	診療報酬請求の実務・演習 ・医科診療報酬点数表 ・その他随時プリント配布
参考文献・資料等	適宜配布
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	TCM_医療通訳基礎 I		(TCM123)
講義名（コード）	TCM_医療通訳基礎 I_A		(TCM123A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	4単位
授業担当者	劉琦、伊東かつみ	時間数	60時間
成績評価教員	劉琦	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解と医療の倫理観を備え、通訳者としての適切な言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材になる。
全体的内容と概要	①日本語の漢字の音読みと音通語の変換原則 ②体の部位を日本語で反応する練習。モーラとNLPの応用でペア練習 ③不自然な日本語の改善：イ形容詞と形容詞の違いの分析と改善 ④厚生省の医療通訳；1-①通訳のプロセス、1-②文化をどう訳すか、1-③文化をどう訳すか 1-④通訳者の責任、1-⑤メッセージのコード化、1-⑥言語使用域、1-⑦①対話通訳と相互作用、①コミュニケーションとは？1.母語と第二言語の習得、②通訳に
授業時間外の学修	毎日必ず日本語のニュースを聞く。
履修上の注意事項等	通訳の文字資料および音声や動画資料を配布する場合は必ず予習しておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画（劉琦）		
回	到達目標	授業内容
1	朗読の訓練：正確な発音、流暢さ、適切な音量、大勢の前で落ち着いた態度	中国語の朗読：正確な北京語の発音および日本語の朗読：正確な標準語の発音
2	朗読の訓練：正確な発音、流暢さ、適切な音量、大勢の前で落ち着いた態度	日本語の朗読：正確な標準語の発音
3	記憶の訓練：10秒前後の内容は1度聞いて70%、20秒前後の内容は2度聞いて70%ぐらい記憶できる。	中国語の練習問題および日本語の練習問題、音声の書取
4	記憶の訓練：10秒前後の内容は1度聞いて70%、20秒前後の内容は2度聞いて70%ぐらい記憶できる。	日本語の練習問題、音声の書取
5	ヒヤリングの訓練：練習問題を1回聞いて50%、2回聞いて80%ぐらい理解できる。	N2やN1あるいは留学生試験のリスニング問題
6	ヒヤリングの訓練：練習問題を1回聞いて50%、2回聞いて80%ぐらい理解できる。	N2やN1あるいは留学生試験のリスニング問題
7	幅広い日常会話の通訳ができる。	日常会話を耳で聞いて通訳する。
8	幅広い日常会話の通訳ができる。	日常会話を耳で聞いて通訳する。
9	幅広い日常会話の通訳ができる。	日常会話を耳で聞いて通訳する。
10	活字資料を朗読、通訳できる。	厚生労働省の医療通訳練習問題を朗読して通訳する
11	活字資料を朗読、通訳できる。	厚生労働省の医療通訳練習問題を朗読して通訳する
12	活字資料を朗読、通訳できる。	厚生労働省の医療通訳練習問題を朗読して通訳する
13	活字資料を朗読、通訳できる。	厚生労働省の医療通訳練習問題を朗読して通訳する
14	期末試験	春学期試験
15	追試・フィードバック	試験問題を解説する

4. 本授業科目の授業計画（伊東かつみ）

回	到達目標	授業内容
1	発音の基礎；モーラの理解、正しい発音の事故訂正ができる。	オリエンテーション、・ゲームのルール、・成績の評価基準の説明、・日本語の発音基礎、・日中漢字変換の原則と実施練習
2	通訳者の倫理と原則が理解できる	●日本語の文化理解；端午の節句、●聞き取りと発音練習：ん、促音、長音・短音、濁音・清音 ●漢字の読み方発音練習 ●体の部位練習 ●N1 聞き取りについて、間違い探しと分析、●クイズ 変な日本語訂正●テキスト 伝え方
3	体の部位を日本語で感じ取れる聞きとりができない原因を理解できる	1-1. 通訳理論（1）訳すということ（2）文化をどう訳すか（3）通訳者が担う責任、（4）等価なメッセージとは（5）言語使用関（6）三者二言語モデル ◎そこ、あそこ◎の使用方法◎イ形容詞とナ形容詞の区別
4	通訳の技術の理解、自己評価が客観的にできるようになる	・通訳の必要な技術、・自己評価の仕方
5	日本人の空気の読み方への適用ができる。人間関係の問題対処方法を理解できる	・対人通訳とは ・日本人の空気の読み方 ・
6	通訳者の基本的な立場が理解できる	・通訳とは ・医療通訳者の役割
7	日常使える尊敬語、尊敬語の規則を体で覚えらるる	・敬語；尊敬語・体を使った練習 ・場面演習
8	動詞の基本形と尊敬語と謙譲語がすぐに言えるようになる	・敬語：謙譲語 ・体を使った練習、・場面演習
9	敬語の活用がスムーズにできる	・敬語の復習・アクセント ・聞き取り ・使役形と受け身形、・られる：可能形、尊敬語、受け身
10	通訳の過程の理解	・受け身形の意味 ・通訳のプロセス
11	助詞の区別ができる、助詞を推測できる	・助詞の基本、固有名詞のアクセント・ 聞き取りの間違い分析
12	医療の倫理観を身に着ける	・通訳の倫理、・期末テストの範囲発表、準備
13	活字資料を朗読、通訳できる。	・期末テストの練習、間違い分析
14	前期期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	・間違いの分析と原因究明、対策、・夏休みの目標発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
参考文献・資料等	練習問題（活字、音声、映像など）を配布する 日本語基礎文法の p p t
備考	進度は変更になることがあります。